

1. 概要

(1) 商船三井が運航するばら積み貨物船「WAKASHIO」(わかしお)が、ブラジルで鉱石を積むため中国から移動中、現地時間7月25日19時25分頃(日本時間26日0時25分頃)、モーリシャス南東沿岸のサンゴ礁帯に座礁。

(2) 当初油の流出はなく、船主(長鋪汽船)は離礁を試みるも、荒天により難航。その後、現地時間8月6日(木)に船体に亀裂が発生し、搭載していた燃料等約4千トンのうち約1千トンが流出した。

(3) 商船三井によれば、本船中に残っていた油(推定約3千トン)は現地時間8月12日(水)までにほぼ全量を回収。



2. 日本の支援

(1) モーリシャス政府からの支援要請を受け、日本政府は、10日、国際緊急援助隊・専門家チーム(外務省1名(団長)、海上保安庁4名、JICA1名)を派遣、現地当局等と協力し、油の流出状況の調査や油防除作業等に関する支援活動を実施中。モーリシャス首相からも日本の支援に感謝している旨発言あり。

(2) さらに専門家チームは、モーリシャス沿岸警備隊に対する油防除に関する研修の実施を検討中。

(3) 日本政府は、環境分野の支援を強化すべく、19日に国際緊急援助隊・専門家チーム(第二次隊)(7名)を派遣することとしており、海岸に漂着した油状物への対処、漂着地域の生態系への影響の把握などを支援する予定。また、モーリシャス政府より要請のあった油防除に関する資機材を可能な限り迅速に輸送する予定。

